

3・2 青潮発生状況

2019年4月から2020年3月までの青潮発生状況を表2に示す。

いずれも4日程度で解消し、漁業被害の報告は無かった。なお、青潮発生の範囲は初日に広範囲で確認され、翌日あるいは翌々日には港内に残るのみとなる傾向にあった。

近年の状況を見ると、2017年度は2日～6日程度、2018年度は3日～5日程度で解消しており^{2) 3)}、2019年度もほぼ同様であった。

表2 千葉県における青潮発生状況（2019年度）

期間	発生場所（最大時）	漁業被害等
6/10～6/13	養老川河口～浦安近辺	漁業被害は報告無し
7/8～7/11	千葉中央港～市川航路西側	漁業被害は報告無し

3・3 青潮発生時の水質

6月10日に青潮の発生が確認された東京湾3、東京湾4及び東京湾8について、鉛直方向の溶存酸素量（DO）を図2に示す。3地点とも、公共用水域常時監視地点であり、図1に数字で示した位置である。なお、グラフに使用したデータは、多項目水質計による測定データを、水深間隔0.5mごとに層厚±0.1mで平均を計算したものである。

6月10日に目視で確認された青潮の範囲から、東京湾3（京葉港沿岸）は青潮、東京湾4（市川・船橋沖）は青潮が見られた海域からやや離れた地点、東京湾8（湾中央）は青潮が見られなかった地点である。青潮が確認された東京湾3では表層の溶存酸素量が0.5mg/Lと、東京湾8、東京湾4に比べて大きく減少していた。青潮が見られた海域からやや離れた東京湾4では、水深2.5m以深で貧酸素の目安である3.0mg/Lを下回り、水深8.0m以深では、0.0mg/Lとなった。また、青潮が見られなかった東京湾8においても、水深8.0m付近以深で、溶存酸素量が急激に減少し、貧酸素水の目安である3.0mg/L程度となっていた。

また、東京湾3、東京湾4及び東京湾8における鉛直方向の水質（水温、塩分、溶存酸素量（DO）、酸化還元電位（ORP））を図3に示す。なお、グラフに使用したデータは、図2と同様である。3地点のグラフを比較すると、東京湾4における水深8.0m付近で酸化還元電位（ORP）が急激に下がっており、還元状態となっていた。

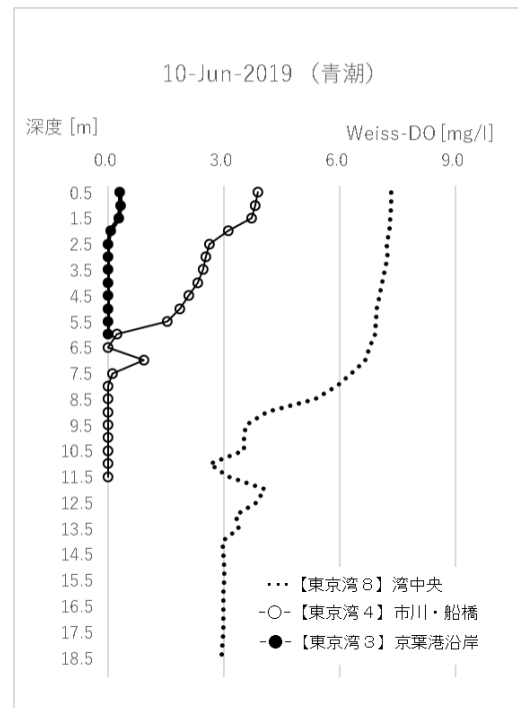


図2 青潮発生時の水質（溶存酸素量）

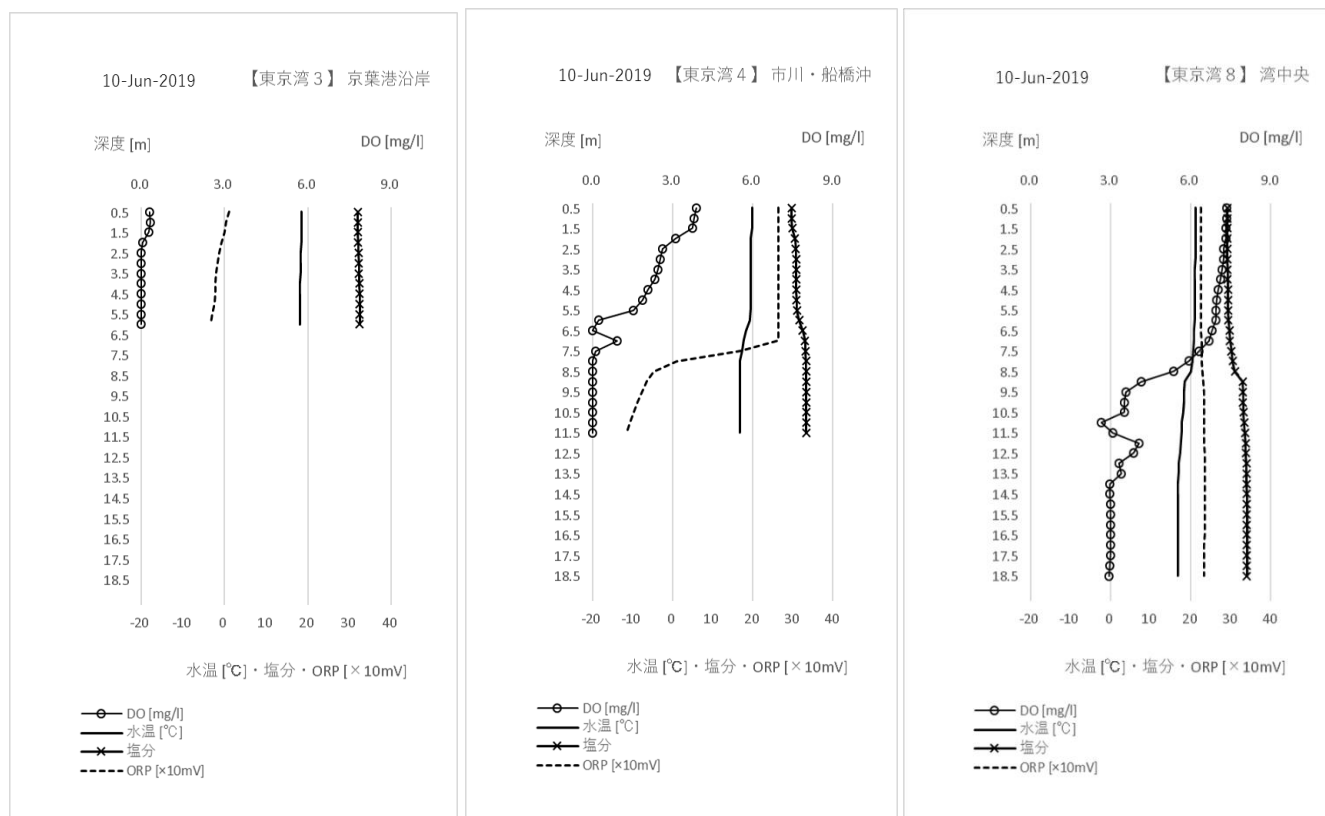


図3 青潮発生時の水質

参考文献

- 1) 小倉紀雄編：東京湾－100年の環境変遷－，恒星社厚生閣，47～50(1993).
- 2) 飯村晃，横山智子，丹澤貴大，行方真優：東京湾の青潮発生状況(2017),千葉県環境研究センター年報第16号，97-98(2018).
- 3) 横山智子，丹澤貴大，星野武司，飯村 晃：東京湾の青潮発生状況－2018 年度－千葉県環境研究センター年報 17 号，117-118(2019).